

Complaining fo a Japorate Bu Managmment iin the Digital Era
Adaptive Business Era
Proposing onallve Business Managgment in the Digital

DIGITAL
BUSINESS
MANAGEMENT **AI**

Business
Adaptalite

データ活用型DXスキル習得プログラム

ADAPTATION

DIGITAL
AGILITY

AGILITY
Formaet:

• 1600x900

企業に求められる人材育成方針

企業経営を安定させるには、企業が事業を支える従業員の長期的な活躍を支援し、計画的かつ積極的に人材育成に取り組むことが不可欠です。

企業が積極的に人材育成に取り組むことで、従業員の職業能力が向上し、生産性や労働条件が改善され、経営の安定と企業イメージの向上が実現します。このことがさらに就職希望者の増加を促し、好循環をもたらすのです。

それでは、企業が育てるべき人材とはどのようなものでしょうか？

それは、企業の競争力を高める人材です。

データとデジタル技術の活用が進む今日、イノベーションが活発に行われ、グローバルな競争力が求められていますが、多くの日本企業はDXの導入で遅れをとっているとされています。

そこで経済産業省は、DXの基礎知識やスキル・マインドを持つ人材の育成を目指し、「デジタルスキル標準」という指針を示しました。

デジタルスキル標準の改訂＜概要＞（令和5年8月）

- 急速に普及する生成AIは、各企業におけるDXの進展を加速させると考えられ、企業の競争力を向上させる可能性がある。あわせて、ビジネスパーソンに求められるデジタルスキルも変化し、より重要になる部分もあると想定される。
- その状況に対応するため、昨年末に策定したデジタルスキル標準（DXリテラシー標準）に関する必要な改訂を実施。

標準策定のねらい

✓「DXを自分事ととらえ、変革に向けて行動できるようになる」という位置づけは不変

Why

（DXの背景）

【考え方】

- ✓ 産官学全体で生成AIを利用した取り組みが進んでおり、**社会環境へ影響を与える可能性**がある

改訂箇所

- 社会の変化

What

（DXで活用されるデータ・技術）

【考え方】

- ✓ **生成AIは、ビジネスの場で急速に普及・利用**されている
- ✓ また、デジタル技術・サービスの進化に伴い、活用されるデータの**重要性がさらに増している**

改訂箇所

- データを扱う（データ入力・整備等）
- データによって判断する（データの信頼性等）
- AI（生成AIの技術動向、倫理等）

How

（データ・技術の利活用）

【考え方】

- ✓ 生成AIは、ツール等の基礎知識や指示（プロンプト）の手法を用いて業務の様々な場面で利用できる
- ✓ **情報漏洩や法規制、利用規約等に正しく対処しながら利用**することが求められる

改訂箇所

- データ・デジタル技術の活用事例（**生成AIの活用事例**）
- ツール利用（**生成AIツール、指示（プロンプト）の手法**）
- モラル（データ流出の危険性等）、コンプライアンス（**利用規約等**）

マインド・スタンス

【考え方】

- ✓ 他項目と比べてより普遍的な要素を定義しているため、その**本質は変わらず、生成AI利用においても重要**となる

改訂箇所

- 生成AI利用において求められるマインド・スタンスの補記
 - ・ 生成AIを「問いを立てる」「仮説を立てる・検証する」等のビジネスパーソンとしてのスキルと掛け合わせることで、生産性向上やビジネス変革へ適切に利用しようとしている
 - ・ 生成AI利用において、期待しない結果が出力されことや、著作権等の権利侵害・情報漏洩、倫理的な問題等に注意することが必要であることを理解している
 - ・ 生成AIの登場・普及による生活やビジネスへの影響や近い将来の身近な変化にアンテナを張りながら、変化をいわず学び続けている
- 事実に基づく判断（**生成AIの出力等**）

全てのビジネスパーソン（経営層含む）

<DXリテラシー標準>

全てのビジネスパーソンが身につけるべき
能力・スキルを定義

DXを推進する人材

<DX推進スキル標準>

DXを推進する人材タイプの役割や
習得すべきスキルを定義

（ビジネスアーキテクト／デザイナー／
データサイエンティスト／ソフトウェアエンジニア／
サイバーセキュリティ）

標準策定のねらい

働き手一人ひとりが「DXリテラシー」を身につけることで、
DXを自分事ととらえ、変革に向けて行動できるようになる

Why DXの背景

- ✓ DXの重要性を理解するために必要な、社会、顧客・ユーザー、競争環境の変化に関する知識を定義

→DXリテラシーとして身に付けるべき知識の学習の指針とする

What DXで活用される データ・技術

- ✓ ビジネスの場で活用されているデータやデジタル技術に関する知識を定義

→DXリテラシーとして身に付けるべき知識の学習の指針とする

How データ・技術の活用

- ✓ ビジネスの場でデータやデジタル技術を活用する方法や留意点に関する知識を定義

→DXリテラシーとして身に付けるべき知識の学習の指針とする

マインド・スタンス

- ✓ 社会変化の中で新たな価値を生み出すために必要な意識・姿勢・行動を定義

→個人が自身の行動を振り返るための指針かつ、組織・企業がDX推進や持続的成長を実現するために、構成員に求める意識・姿勢・行動を検討する指針とする



ビジネスアーキテクト

DXの取組みにおいて、ビジネスや業務の変革を通じて実現したいこと（＝目的）を設定したうえで、関係者をコーディネートし関係者間の協働関係の構築をリードしながら、目的実現に向けたプロセスの一貫した推進を通じて、目的を実現する人材

ビジネスの視点、顧客・ユーザーの視点等を総合的にとらえ、製品・サービスの方針や開発のプロセスを策定し、それらに沿った製品・サービスのありかたのデザインを担う人材



デザイナー

DXの推進において、デジタル技術を活用した製品・サービスを提供するためのシステムやソフトウェアの設計・実装・運用を担う人材



ソフトウェアエンジニア



データ
サイエンティスト

DXの推進において、データを活用した業務変革や新規ビジネスの実現に向けて、データを収集・解析する仕組みの設計・実装・運用を担う人材



サイバーセキュリティ

業務プロセスを支えるデジタル環境におけるサイバーセキュリティリスクの影響を抑制する対策を担う人材

データやデジタル
技術を活用した
製品・サービスや
業務などの変革

この背景をもとに、すべての業種や部門の従業員がビジネスアーキテクトとしての知識とスキルを身につけることを目的に、この講座を企業の計画的な人材育成プログラムとして作成しました。

繰り返しとなりますが、企業経営の安定には積極的な人材育成が不可欠です。それにより、変化の激しいビジネス環境に対応し、デジタル技術を活用して業務効率化を図るほか、顧客や社会のニーズに合わせて製品・サービス、ビジネスモデルを革新し、業務や組織、プロセス、企業文化を変革して競争優位を確立することが求められます。

これを実現するには、単にIT系研修を全従業員に受講させる受動的な育成ではなく、以下を心がける必要があります

- 適切な推進者を社内で選任すること
- 推進者が従業員への相談や指導を行えること
- 事前に育成計画や方針を策定すること
- 計画を従業員と共有すること
- 目的に沿った内容であること
- 計画に基づき実施されているか確認すること
- 結果が共有されるよう報告を行うこと

以上を踏まえて、積極的な人材育成を進めましょう。

本講座の特徴

目標設定と組織推進

この講座は、VOC分析を用いて顧客満足度の向上やサービス改善という具体的な目標を掲げ、組織全体をその実現に向けて導く力を育成する内容です。このプログラムの目的は技術学習だけでなく、従業員が顧客の声を活かして業務プロセスを改善し、変革する力を身につけることです。

協働の促進

本プログラムは、顧客および現場の声を収集し、それをもとに意思決定を行い、関係者の協働を促進します。口コミやSNSのフィードバックを解析し、全員参加で現場改善を進めるプロセスは、組織の目標達成をリードするビジネスアーキテクトの役割を象徴しています。

データ活用のプロセス推進

データ分析や技術構築だけでなく、ビジネス課題を解決するためのプロセス推進に重点を置いています。ビジネスアーキテクトは顧客の声から得たデータを用い、関係者を調整しながら戦略を主導します。

意思決定と改善

本プログラムは、VOC分析に基づいたデータを活用し、従業員が現場で迅速かつ正確に意思決定を行うスキルを育成します。これにより、ビジネスアーキテクトが組織の変革を推進し、具体的な成果を生み出す役割を担います。

学習管理が行えるLMS環境の提供

本講座ではGoogle社のLMS機能により受講者の学習管理ができる環境をご用意します。

Step1: 当社が御社専用のLMS環境を構築します

Step2: 受講者に無料のGmailなどGoogleベースでのメールアドレスで受講登録して頂きます

Step3: 受講者は契約期間中いつでも全てのeラーニング動画を視聴し学習することができます

Step4: 受講者は学習が完了したらLMS上から完了報告をします

Step5: 実施責任者は全員の受講状況を確認することができます



DXの基礎知識

デジタルトランスフォーメーション(DX)の基本概念とその重要性について学びます。ビジネスアーキテクトがDXの推進役として果たすべき役割を明確にすることで、社内業務の高度化・効率化に向けた基盤を構築します。これにより、ビジネスアーキテクトはDXの本質を理解し、企業全体のデジタル化を効果的に推進するための基礎知識を得ることができます。

DXの定義と目的(標準学習時間:11分7秒)

DXの必要性とビジネスへの影響(標準学習時間:10分27秒)

成功事例と失敗事例の詳細分析(標準学習時間:9分56秒)

DXの歴史と未来予測(標準学習時間:9分11秒)

DXの主要技術とトレンド(標準学習時間:10分42秒)

DXの倫理と社会的責任(標準学習時間:8分39秒)

確認テスト20問(標準学習時間:10分0秒)※オプション

データ活用と分析

データの収集、整理、分析の手法を学びます。これにより、業務の効率化や戦略的な意思決定を支援するデータ駆動型のアプローチを取り入れ、企業全体のパフォーマンスを向上させる能力を身につけます。データを効果的に活用することで、業務の無駄を削減し、プロセスの最適化を実現します。

データの収集方法とツール(標準学習時間:10分53秒)

データベースの設計と管理(標準学習時間:11分1秒)

データ分析ツールの詳細紹介(Excel、Tableau、PowerBI)(標準学習時間:10分29秒)

データの視覚化と報告方法(標準学習時間:10分36秒)

ビッグデータの応用と事例研究(標準学習時間:10分59秒)

データガバナンスとデータ品質管理(標準学習時間:13分34秒)

データの倫理、プライバシー、法的側面(標準学習時間:12分46秒)

確認テスト20問(標準学習時間:10分0秒)※オプション

AIとVOC分析の基礎知識

AI技術を活用して顧客の声 (Voice of Customer: VOC) を会社の全従業員で効率的に収集・分析し、顧客満足度の向上やサービス改善に役立てるための基礎知識を習得できます。具体的には、VOCデータ(レビューやフィードバック、SNS投稿など)をAIを使って自動的に処理・分析し、顧客ニーズや問題点を明確化する方法を学び、これを基に製品やサービスの改善を行うためのスキルを身につけ、データに基づいた意思決定を支援するビジネスアーキテクトを目指します。

- VOC分析の役割と重要性
- VOC分析の利用例から活用方法を学ぶ
- 顧客体験改善のためのAIの活用

(標準学習時間:23分07秒)

音声認識技術とテキストマイニング

音声データをリアルタイムで自動的にテキスト化する音声認識技術により、会議や顧客対応などの記録を効率的にデジタル化できます。さらに、テキストマイニングを組み合わせることで、テキスト化されたデータから重要な情報やトレンド、感情分析を行い、パターンを抽出して意思決定や業務改善に役立てます。この連携により、膨大なデータの中から必要なインサイトを迅速に得ることが可能です。

- ・音声認識技術の概要
- ・音声データの収集方法と事例
- ・テキストマイニングの基礎
- ・音声からテキストへの変換

(標準学習時間:18分21秒)

自然言語処理(NLP)によるテキスト分析

自然言語処理(NLP)によるテキスト分析は、人間の言語をコンピュータが理解・処理し、テキストデータから意味や感情、トピックなどを抽出・分析する技術です。これにより、レビューやアンケート、SNS投稿などの大量のテキストデータから有用な情報を自動的に取得し、ビジネスや研究のためにデータを整理・活用できます。NLPを用いることで、人手による作業では困難なデータ分析を効率化し、迅速な意思決定やマーケティング戦略の立案が可能になります。

- NLPの基本概念
- キーワード抽出とトピックモデリング
- 顧客の意図を理解するためのテキスト解析
- 顧客のニーズと問題点の抽出

(標準学習時間:22分36秒)

感情分析とVOC分析における活用法

感情分析は、テキストデータからその背後にある感情（ポジティブ、ネガティブ、ニュートラルなど）を自動的に識別・分類する技術です。レビューやSNS投稿、顧客フィードバックなどのデータを分析することで、顧客やユーザーの感情を把握し、製品改善や顧客対応、マーケティング戦略の立案に役立てます。感情分析を活用することで、企業は顧客の潜在的な不満を早期に察知し、問題の解決やブランドイメージの向上を図ることができます。

- ・感情分析の理論と技術
- ・テキストデータからの感情分類
- ・感情分析のビジネス活用

（標準学習時間：18分43秒）

職務現場での口コミやSNSのVOC分析

職務現場での口コミやSNSを活用したVOC (Voice of Customer) 分析は、顧客や従業員の声を収集・解析し、現場の改善や組織全体のパフォーマンス向上に役立てるための、全従業員があらゆる場面で職務に役立つ知識や技能が学べます。口コミやSNS上で顧客が発信するフィードバックや意見、感情をAI技術で分析することで、具体的な問題点やトレンドを把握し、迅速かつ高度な顧客対応や現場レベルでの意思決定に繋がられるビジネスアーキテクトを育成できます。

- ・ソーシャルメディアと口コミの重要性
- ・SNSのフィードバック収集と分析ツールの活用
- ・口コミサイトの分析手法
- ・感情分析とテキストマイニングを活用したSNS・口コミ分析

(標準学習時間:42分07秒)

VOC分析でのデータの可視化とレポーティング

VOC分析におけるデータの可視化とレポーティングは、収集された顧客の声（レビュー、アンケート、SNS投稿など）を効果的に理解し、意思決定に活かすための重要なステップです。可視化では、グラフやチャートを用いて、顧客の感情やトレンド、頻出ワード、セグメント別の評価などを視覚的に表現します。これにより、パターンや傾向を直感的に把握でき、迅速な分析が可能です。レポーティングでは、可視化されたデータをもとに、要点や改善点を整理し、具体的なアクションプランや戦略提案をまとめます。このプロセスにより、経営層や現場担当者に対して、データに基づいた意思決定を支援することができます。

- データ可視化の基本ツール
- 可視化技術を用いた分析結果の伝達
- レポート作成と意思決定への応用

(標準学習時間:22分15秒)

VOC分析におけるセキュリティとプライバシー保護の知識

VOCデータには個人情報やセンシティブな情報が含まれる可能性があり、適切な管理が求められます。まず、データの収集や処理時には、個人情報保護法やGDPRなどの規制に準拠し、顧客の同意を得た上で行う必要があります。また、データは暗号化やアクセス制限によって保護し、不正アクセスや漏洩を防止します。さらに、データの匿名化や不要データの削除を行い、分析の目的に必要な最小限の情報のみを扱うことが推奨されます。こうしたセキュリティとプライバシー保護の対策により、顧客データを安全かつ倫理的に使用することができます。

- ・顧客データのプライバシー保護に関する法的要件
- ・データのセキュリティ対策
- ・個人情報保護法およびGDPRに準拠したデータ管理

(標準学習時間:21分18秒)

クラウドソリューションとその活用

クラウド技術の基礎とその利点について理解します。クラウドを活用することで、業務プロセスの効率化、柔軟なスケーラビリティ、コスト削減を実現し、迅速な業務展開を可能にします。クラウドソリューションの導入により、企業のITインフラを強化し、業務の柔軟性と効率性を向上させます。

クラウドサービスの種類と選択基準(標準学習時間:12分59秒)

主要クラウドプロバイダーの比較と選定(標準学習時間:11分28秒)

クラウドのセキュリティと管理、事例研究(標準学習時間:12分22秒)

クラウド導入の成功事例と失敗事例(標準学習時間:11分12秒)

クラウドネイティブアプリケーションの開発(標準学習時間:10分21秒)

ハイブリッドクラウドとマルチクラウド戦略(標準学習時間:11分4秒)

クラウドコストの最適化と管理(標準学習時間:11分3秒)

IoTとその応用

IoT (Internet of Things) の基本概念とその応用について学びます。IoT技術を活用することで、リアルタイムデータの取得と分析が可能となり、業務プロセスの自動化と効率化を進める方法を習得します。これにより、物理的な業務のデジタル化を推進し、生産性の向上を図ります。

IoTの基本構造と通信プロトコルの詳細 (標準学習時間: 10分44秒)

IoTデバイスの選定と導入方法、実践事例 (標準学習時間: 10分36秒)

IoTデータの収集、分析、応用 (標準学習時間: 11分25秒)

スマートファクトリーとスマートオフィスの実現 (標準学習時間: 10分31秒)

IoTセキュリティの重要性と対策 (標準学習時間: 11分20秒)

実際のIoTプロジェクト事例と分析 (標準学習時間: 12分18秒)

IoTの未来予測とトレンド (標準学習時間: 11分22秒)

AIと機械学習の基礎

人工知能(AI)と機械学習の基礎知識を学びます。これにより、業務の自動化や高度なデータ分析を通じて、業務の高度化・効率化を推進するスキルを養います。AI技術を活用することで、複雑な業務の自動化を実現し、業務の正確性と効率性を向上させます。

AIの歴史、現状、未来(標準学習時間:12分13秒)

機械学習の基本アルゴリズムと応用(標準学習時間:10分11秒)

AIプロジェクトの進め方と管理(標準学習時間:13分0秒)

AIツールの詳細紹介と実習(標準学習時間:10分57秒)

自然言語処理と画像認識の応用と事例(標準学習時間:12分21秒)

ディープラーニングの基礎と応用(標準学習時間:10分26秒)

強化学習とその応用事例(標準学習時間:11分21秒)

各部門におけるDXの応用①

社内現場でのDX導入事例を通してビジネスアーキテクトとしての価値を高めます。具体的な事例を学ぶ事で、部門に捉われない最適なDXの応用方法を幅広く理解し、全社的な業務効率の向上を目指します。全ての従業員が各部門の特性に応じたDXの取り組み方を学ぶことで、部門間の連携を強化し、統一されたDX戦略を実現します。

総務部門: オフィスのデジタル化の詳細/ワークフローの自動化と具体的ツール/テレワーク管理ツールの実践活用/デジタル文書管理システムの導入と最適化/人事管理システム(HRM)の詳細導入
(標準学習時間: 35分16秒)

経理部門: 財務データの詳細分析と管理/経費管理システムの導入と最適化/デジタル支払いとブロックチェーン技術の応用/自動化された会計システムの詳細/財務予測とプランニングの詳細
(標準学習時間: 33分7秒)

各部門におけるDXの応用②

クラウド技術の基礎とその利点について理解します。クラウドを活用することで、業務プロセスの効率化、柔軟なスケラビリティ、コスト削減を実現し、迅速な業務展開を可能にします。クラウドソリューションの導入により、企業のITインフラを強化し、業務の柔軟性と効率性を向上させます。

営業部門:顧客管理システム(CRM)の詳細活用/セールスデータの詳細分析と予測/デジタルマーケティングツールの深掘り/ソーシャルメディア分析と応用/パーソナライズドマーケティングの実践
(標準学習時間:31分30秒)

法務部門:契約管理システムの詳細導入/法務データのデジタルアーカイブの最適化/法務リスクのデジタル分析と対策/データプライバシーとコンプライアンス管理の詳細/電子署名とデジタル契約の深掘り
(標準学習時間:33分17秒)

定額コース料金	確認テスト無し		確認テストあり	
	毎月払い	一括払い	毎月払い	一括払い
動画視聴	契約期間中は見放題		契約期間中は見放題	
確認テスト	無し		有り	
LMS環境	当社にて構築		当社にて構築	
修了証	当社にて発行		当社にて発行	
3ヶ月コース (1アカウント)	月額45,000円 (税込49,500円)	<u>約11%お得</u> 1人月額40,405円 (税込44,445円)	月額54,000円 (税込59,400円)	<u>約15%お得</u> 1人月額45,455円 (税込50,001円)
6ヶ月コース (1アカウント)	月額36,000円 (税込39,600円)	<u>約11%お得</u> 1人月額32,234円 (税込35,556円)	月額45,000円 (税込49,500円)	<u>約15%お得</u> 1人月額37,880円 (税込41,668円)
12ヶ月コース (1アカウント)	月額27,000円 (税込29,700円)	<u>約11%お得</u> 1人月額24,243円 (税込26,667円)	月額36,000円 (税込39,600円)	<u>約15%お得</u> 1人月額30,304円 (税込33,334円)

Q:定額コースは解約できますか？

A:毎月払いの場合は事前に申し出る事で可能ですが一括払いの場合は不可能です。

Q:毎月払いの場合の月単位はどのように計算されますか？

A:視聴開始日は毎月1日とするため毎月末日が1ヶ月の終わりとなります。

Q:毎月払いの場合で解約した場合は日割り計算されますか？

A:いいえ、されません。月単位となります。

Q:一括払いの場合は返金がありますか？

A:いいえ、ありません。

Q:支払い時期を教えてください。

A:毎月払いの場合は前月末日までにお支払いください。一括払いの場合は視聴開始日までにお支払いください。

Q:一括払いの場合メリットはなんですか？

A:先払いしていただく事で月額換算した場合の金額がお得になります。

Q:料金は1人につき月額でかかりますが？

A:はい、かかります。ただし、人数のカウントではなく受講登録するメールアドレス単位で一つのアカウントとみなします。企業様は必要なアカウント数を指定し申し込みしてください。

Q:アカウントを共有することは出来ますか？

A:いいえ、1人につき対応する1アカウントでのご利用をお願いしており、そのアカウントに対して学習進捗の管理や修了証の発行などを行うことができます。

Q:アカウントを割り当てられた従業員が辞めた場合はどうなりますか？

A:その場合は、その方のメールアドレスを削除申請していただく事で、1アカウント分が復活しますので、そのアカウントを利用して、新たにメールアドレスを登録しなおす事で、別の方が受講をする事ができるようになります。その場合でも、辞めた方の受講履歴データは保存する事が可能です。

Q:アカウント数を途中で変更することは出来ますか？

A:毎月払いの場合は事前に申し出る事で可能ですが一括払いの場合は不可能です。

Q:申し込めるアカウント数に制限はありますか？

A:特にありませんが、リスクリングを望む従業員の総数をお申し込みされるのが良いと思います。

Q:動画の品質は高いですか？

A:動画は、株式上場時に自身の会社のDXを自ら成し遂げた創業者を初め、国内外でいち早くAIやシステムを活用しあらゆる業務の無人化を次々と成功させた経営者などが、制作や監修を行っておりますので、ただDXに関する知識や技能を学習するのではなく、現在の職務に直接的に役立つ専門的な訓練として、これからのあなたのキャリアに大きく貢献する事を目的としています。

Q:動画は見放題ですか？

A:はい、契約期間中はどの動画でも見放題です。期間内にコンテンツが追加された動画も含め全て見放題でいつでもご覧いただけます。

Q:動画はスマートフォンでも見れますか？

A:はい、PCでもスマートフォンでも視聴可能です。ただし、本コースは企業内の従業員の皆様が自身の職務に関する知識や技能を向上させる事を目的としていますので、企業の訓練担当者様が立てた方針や計画などがあれば、それに従って視聴を行うようにしましょう。

Q:従業員の学習管理は出来ますか？

A:はい、Google社のLMS機能を活用して専用のLMS環境を構築いたしますので、どなたがいつどのeラーニング学習が完了したかを一人一人確認することができます。

会社名	株式会社PRC
住所	埼玉県飯能市緑町7-4
会社HP	https://prc-training.com/